

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	国際教養学科		
科目名称	地域データ分析						授業形態	演習	
科目コード	531201	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験担当教員	○	Active・L	○
担当教員名	呉 海鍾							ICT活用	○
授業概要	近年、地域社会への貢献プロジェクトの重要性が高まっており、地域の構造や機能、さらには社会変化による影響を包括的に分析する必要性が増している。本講義では、「持続可能な開発のための教育（ESD）」と「課題解決型学習（PBL）」の手法を取り入れ、受講生が地域データ分析を基盤とした地域貢献活動に主体的に取り組むことを目的とする。 本講義では、以下の点を重視する。 ・社会調査スキルの向上：適切な測定手法を用い、地域統計データを活用した社会調査を実施する。 ・実践的な学習機会の提供：ESDとPBLを融合した演習プログラムを通じ、地域データ分析に基づいた実践的な学習を行う。 ・能力の総合的向上：チームベースの学習を取り入れ、分析力、問題解決力、地域貢献力を強化する。 さらに、本講義は実務経験を有する教員が担当し、地域社会に関わる実際のプロジェクトや政策立案の現場で培った知識や経験を活かした指導を行う。これにより、理論的な学習にとどまらず、実際の地域課題に対応するための実践的な能力や応用力を身につけることを目指す。								
関連する科目	統計学、情報処理Ⅰ、地域貢献プロジェクトなど								
授業の方法と進め方	授業では、「持続可能な開発のための教育（ESD）」と「課題解決型学習（PBL）」の手法を取り入れ、受講生が主体的に学べる構成としている。 ①講義：地域データ分析の基本概念や手法を体系的に学ぶ。 ②学習：統計ソフトを活用し、データ処理、グラフ作成、分析手法の実践を行う。 ③PBL：実際の地域課題を題材に、チームで課題解決に取り組むプロジェクト学習を実施する。								
第1回	イントロダクション（地域データ活用術と基本概念の理解） ・内容: 地域データとは何か、活用の重要性和と目的。ビッグデータやオープンデータの基本概念。 ・演習: 実際の地域データ例を見ながら分析の概要を学ぶ。								
第2回	統計ソフトの種類と基礎操作 ・内容: 統計ソフト（例: Excel, R）の基本機能、データインポート、処理方法。 ・演習: サンプルデータの読み込みと基本的な処理（平均、中央値の計算）。								
第3回	データの視覚化（グラフ作成と簡易分析） ・内容: グラフやチャート（棒グラフ、散布図、ボックスプロット）の作成手法。 ・演習: 自分のデータを用いたグラフ作成と視覚化の練習。								
第4回	統計データの利用方法（e-Stat、RESASの活用） ・内容: 政府統計ポータルサイト（e-Stat）や地域経済分析システム（RESAS）の基本操作。 ・演習: サイトからデータを取得し、実際に分析に利用する方法を学ぶ。								
第5回	地域特性の分析 ・内容: 構成比、特化係数、専門化係数など、地域特性を示す指標の解説と計算手法。 ・演習: 自分の地域に関連するデータを使って指標を計算し、結果を解釈。								
第6回	SDGsとESDを活用した地域データ分析 ・内容: 持続可能な開発目標（SDGs）と地域データ分析の関連性。ESDの実践手法。 ・演習: SDGsに基づいた課題を選び、データで根拠を示す演習。								
第7回	PBL導入とチーム課題選定 ・内容: 課題解決型学習（PBL）の基本とチーム形成。テーマの選定方法。 ・演習: チームで地域課題を議論し、分析テーマを設定。								
第8回	成功事例分析 ・内容: 実際の地域課題解決事例を取り上げ、データの活用方法を学ぶ。 ・演習: 事例を参考に、自分たちの課題に適用できるポイントを抽出。								
第9回	詳細な地域分析（成長率や変化の測定） ・内容: 地域分布の割合、増減率、成長率の計算手法と解釈。 ・演習: 過去のデータを基に地域の成長率を計算し、傾向を分析。								
第10回	地域変化の比較分析 ・内容: 時系列データを用いた地域の変化や地域間比較の手法。 ・演習: 実データを基にした地域変化の可視化と分析。								
第11回	実践部分（第11回～第15回） 宮崎県データ分析①（人口動態や産業データ） ・内容: 宮崎県の人口動態や産業データを用いて、基礎分析を行う。 ・演習: データのトレンドを分析し、課題を抽出。								

第12回	宮崎県データ分析②（課題解決策の具体化） ・ 内容: 宮崎県の地域課題を具体的に検討し、解決策を模索する。 ・ 演習: チームで課題解決案をディスカッションし、提案内容を整理。
第13回	プロジェクト計画と発表準備 ・ 内容: 提案内容をプロジェクト計画としてまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。 ・ 演習: スライド作成、発表練習。
第14回	プロジェクト発表とフィードバック ・ 内容: チームごとにプレゼンテーションを行い、受講者間でフィードバックを共有する。 ・ 演習: 発表後の質疑応答を通じて、課題の深掘りを行う。
第15回	フィードバックの反映と最終レポート提出 ・ 内容: フィードバックを受けてプロジェクトを改良し、最終的な提案をレポートとして提出する。 ・ 演習: レポート執筆のポイント解説と個別相談。
授業の達成目標	・ 地域データ分析の基本概念や統計手法を理解し、実践に活用できる。 ・ 統計ソフトを用いたデータ処理やグラフ作成能力を習得する。 ・ 分析結果を適切に解釈し、地域課題に対する提案を行う能力を身につける。 ・ 持続可能な開発のための教育（ESD）と課題解決型学習（PBL）を活用し、地域課題を主体的に解決する力を養う。 《到達目標：学士力》において、地域データ分析の知識と手法を習得し、チーム学習を通じて、課題解決力を高め、適切な提案力を身につける。
学修成果との関連	5.地域社会に貢献する意欲を有する。／6.地域社会への貢献に必要な知識・技能を有する。
授業時間外学習【予習】	毎回の授業前に、授業内容や関連する参考書や資料を読解し、その後授業に臨む。（約1時間）
授業時間外学【復習】	毎回の授業後に、授業内容やグループディスカッションの内容を振り返り、理解を深める。（約30分）
課題に対するフィードバック	各課題に関するフィードバックは、授業ごとに適宜行う。これにより、学生の積極度や理解度が促進される。
評価方法・基準	授業内での積極的な学習態度（例：グループディスカッション（GD）への参加度）、また授業中の小テストや課題の提出状況を含めて、50%を占めす。さらに、学期末の最終課題の提出と発表なども50%で総合的に評価される。
テキスト	本授業は、テキストを使用せず、適宜関係資料の配布、スライド、ビデオなどを使用しながら進めていく。
参考書	適宜授業で紹介する。
備考	